明後日 6月9日(日)は、『ペンテコステ』(聖霊降臨日)と言う、キリスト教会の 働きの始まりを覚えてお祝いする記念日、言わば『教会の誕生日』ですが、つのぶえでは 2日早く 今朝 迎えました。

教会とは、神様へ想いを献げる(祈り)場所であり、また神様を 喜び感謝する(讃美)場所であり、神様について知る(聖書を読む)場所です。クリスチャンにとっては神様に会える、神様が待っている“自分の居場所”であり自分の家と同じ、もう1つの“帰る 故郷”でもあります。その“教会”はどんな風に形作られ今に至ったのでしょう。最初の“教会”は、弟子達によるイエスさまへの愛と信仰、厚い祈り、一致団結した熱い想いから始まったものでしたイエス・キリストは、十字架で人として死なれた3日目に復活されました。その日が『イースター(復活祭)』です。イエスさまは、よみがえられた確かな証として ご自身の手や足に打ち付けられた釘跡、わき腹に刺された槍の跡が残されたまま人々の目に見える形で あちこちに現れてはその自らの姿を通して、多くの人達に 神様の存在と愛を伝えました。けれども イースターから数えて40日目に愛する弟子達を集められ『わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいます』の約束を残して、彼らの目の前で 真の父である天の神様のもとへ帰られその時から二度とご自身の姿を現されることはありませんでした。(この日を『昇天日』と言います。)また、この時 イエスさまは「わたしが天へ帰った後には、わたしの代わりに“助け主”が来ます。それは、あなたがたの目には見えないけれど、ひとりひとりの心に“生きて働く”神様の力です。」と言われました。その“力”のことを 『聖霊』といいます。【「三位一体」は、これが語源です。すなわち「神様である天の父」、「そのひとり子であるイエスさま」、そして この「人の心に 生きて働く神様の不思議な力としての聖霊」、この3つのかたちは異なっても、“基”は同じ「神」であるという意味から来ています。】間もなく 弟子達に、この不思議な力(聖霊)を神様から与えられる日が訪れました。大好きな師であるイエスさまが 目の前で天へ昇られた『昇天日』 から10日後イースターから50日目のことでした。(ペンテコステとは、この“50”を意味する言葉です。)イエスさまとの別れによる 喪失感と絶望感で途方に暮れ、茫然自失の日々を過していた弟子達に突然 熱い炎のごとく聖霊が注がれます。その出来事は イースター、クリスマス、昇天などと同様、人間業・人知では 決して測り知れない不可解すぎるものでしたが、この場に遭遇し実際に経験した弟子達の心には 衝撃的な変化が起こりました。抜け殻だった皆の心は別人のように 力が みなぎり神さまへの信仰を大胆に語る顔は光り輝き、互いに祈り合い、励まし合う仲間同士へと一転しました。どんな時も 生きて働いてくださっている 神様の力(聖霊)を 実感していることで、常に 自分達を愛し、今までずっと共にいて導いてくださった 復活の主イエス・キリストを、想うことが出来ました。そして 皆で 一つ所に住み、すべてのものを共有し 分かち合い、神さまを賛美し、聖書の御言葉を語り合い、人々のために祈りました。まさに それは イエスさまの 今までの働き、生き方でした。力ある伝道は エルサレムに留まることなく、近隣の国々の大勢の人々にまで 語り伝えられました。この時の 聖霊による弟子達の働きがあったからこそ、時代や国を超えて 今こうして 私達日本人も聖書を手に出来ていることに、神様の 永遠の愛による 深い恵みと 大きな大きな計らいを感じます。

今朝 つのぶえ保育園でも、このペンテコステの出来事に心を馳せながら お隣の成田教会へ行き、教会の方々と共に心を合わせ、礼拝を守りました。聖書のメッセージを通して 弟子達の想いを知り大好きな讃美歌を歌い、子どもも大人も共に祈りを献げ、『教会の誕生日』を一緒にお祝いしました2000年以上も経った今でも あの弟子達に現された聖霊が、変わらず 私達の心に注がれているその喜びと祝福に満たされながら、神様が 私達人間に求められている愛について もう一度見つめこの子ども達の心を大切に育んでいこうと改めてその使命に立ち返る時を過ごしました。(石田 記)